

— 株主の皆様とのコミュニケーションツール —

クラレ通信

第134期 期末報告書

2014年4月1日～2014年12月31日



CONTENTS

- 1** ... 株主の皆様へ
- 3** ... 2014年度 決算概況
／2015年度 業績予想
- 5** ... 【特集1】新中期経営計画「GS-STEP」
(2015年度～2017年度)の概要
- 6** ... 【特集2】社長インタビュー
- 9** ... クラレグループトピックス
- 11** ... 財務情報
- 13** ... 株式情報
- 14** ... お知らせ
- 巻末 ... 会社概要

株式会社 クラレ



代表取締役社長 伊藤 正明

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2015年1月1日に代表取締役社長に就任いたしました伊藤正明です。当社は昨年決算期を変更させていただきましたので新年度は1月よりスタートいたしました。また、後ほど詳しく述べますが、新中期経営計画も今年度よりスタートしています。クラレグループの発展に微力ながら尽くしてまいりますので、株主の皆様には引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2014年度(2014年4月1日~2014年12月31日)は、日本経済は懸念されていた消費増税後の景気減速が明らかになりました。世界経済は、米国経済は好調が続く一方、欧州は景気回復がもたつきました。さらに中国経済も成長鈍化が明らかとなり、新興国経済はまだら模様といった状況でした。期終盤の原油価格下落は当連結会計年度の業績には大きな影響はありませんでした。

このような状況において、当社グループは持続的な成長を実現させるため、コア事業の世界戦略を加速するとともに、水・環境、エネルギー、光学・電子の各領域において次世代を担う事業の開発を積極的に推進してきました。

2014年度の連結業績は決算日変更により、当社ならびに3月決算であった子会社は2014年4月1日から2014年12月31日の9ヵ月間を、12月決算の子会社は2014年1月1日から2014年12月31日の12ヵ月間を連結対象期間としています。前期と比較する場合には、当連結対象期間と同一の期間に補正した数値と比較しております。

2014年度の経営成績につきましては、売上高は前期比71,483百万円(21.0%)増の411,408百万円、営業利益は2,048百万円(5.4%)増の40,298百万円、経常利益は1,721百万円(4.5%)増の40,084百万円、当期純利益は1,829百万円(7.9%)減の21,296百万円となりました。

2015年度は国内においては円安による輸入物価上昇で個人消費の落ち込みが懸念されます。国外においては、米国経済は順調に推移するものの、欧州は景気低迷からの回復が遅れ、また中国経済は成長が減速し、新興国の景気はまだら模様といった状況が続くと予想されます。さらに2014年度終盤からの原油価格急落は、世界経済に影響を与え、加えて地政学上のリスクが拡大するなどの可能性もあり先行きは予断を許しませんが、短期的には当社の業績に対しプラスに働くと予想します。

当社は2015年度より新中期経営計画「GS-STEP」(2015年度~2017年度)をスタートさせています。「GS-STEP」では、コア事業の事業基盤をより磐石にすることによる競争優位性の向上、独自性の高い自社技術の活用による新事業の創出、生産プロセス改良や新プロセス確立による品質・コスト優位性の向上、外部資源のより一層の活用による新規事業領域の拡大などにより、高収益を実現するとともに、事業拡大に向けた経営基盤の構築を着実に進めてまいります。

当社は株主に対する利益配分を経営の重要課題と位置付け、前中期経営計画「GS-Ⅲ」期間中は、持続的な業績向上を通じた増配による株主還元を基本方針とし、連結当期純利益に対する配当性向35%以上を目標としてきました。

この方針の下、2014年度の期末配当金は期初予想値のとおり1株につき9円とさせていただきました。この結果、当期の配当金は、中間配当金と合計しますと1株につき27円(配当性向44.4%)となります。

また2015年度から2017年度の中期経営計画「GS-STEP」期間中においては、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針とし、連結当期純利益に対する総還元性向35%以上、1株につき年間配当金36円以上といたします。それに基づき、2015年度の年間配当につきましては、予想当期純利益360億円を前提に、中間配当18円、期末配当18円とし、年間配当36円(配当性向35.1%)とする予定です。

なお利益配分とは別に、当社が2014年12月末時点で保有しております自己株式32百万株のうち、20百万株以上を2015年度中に消却いたします。

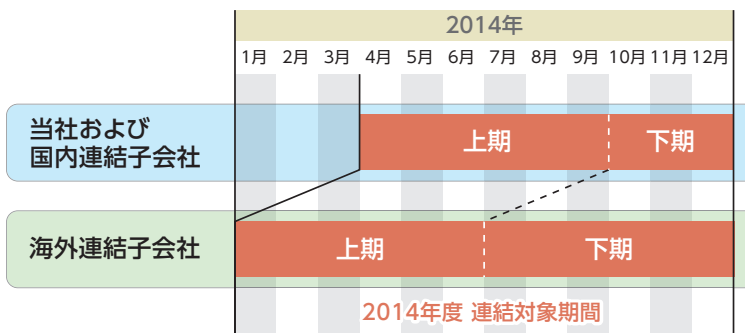
伊藤 正明

2014年度 連結対象期間について

当社および国内連結子会社の事業年度は従来、毎年4月1日から翌年3月31日まで、海外連結子会社の事業年度は毎年1月1日から12月31日までとなっており、連結対象期間に3カ月の差異が生じておりました。この連結対象期間の差異を解消、海外連結子会社と決算期を統一するために、2014年度より当社および国内連結子会社の事業年度を毎年1月1日から12月31日までに変更いたしました。

これに伴い、決算期変更の経過期間となる2014年度は、当社および国内連結子会社は2014年4月1日から12月31日までの9ヵ月間、海外連結子会社は2014年1月1日から2014年12月31日までの12ヵ月間となりました。

2014年度の業績を前期と比較する場合は2013年の業績を同一期間に補正した数値と比較しております。



2014年度 決算概況

金額表示は、億円未満を四捨五入して表示しています。

決算期変更について

当社は2014年度より決算期末を3月31日から12月31日に変更いたしました。これに伴い、2014年度は決算期変更の経過期間となります。連結対象期間は次の通りです。

国内グループ会社：2014年4月～12月

海外グループ会社：2014年1月～12月

比較のため、2013年度実績も同一期間に補正しお示しております。

2014年度 実績

(億円)

	2014年度	2013年度	増減
売上高	4,114	3,399	715
営業利益	403	383	20
経常利益	401	384	17
当期純利益	213	231	△18

期中平均為替レート

	2014年度	2013年度	増減
円／ドル	107	99	—
円／ユーロ	140	131	—
国産ナフサ価格／kl	69千円	65千円	—

セグメント別 売上高・営業利益

(億円)

	2014年度		2013年度		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
▶ ビニルアセテート	2,190	357	1,607	362	583	△5
▶ イソプレン	447	49	420	39	27	10
▶ 機能材料	440	15	388	11	52	4
▶ 繊維	354	23	347	21	7	2
▶ トレーディング	911	28	809	25	102	3
▶ その他	516	20	502	17	14	3
調整額	△744	△89	△673	△93	△71	4
合計	4,114	403	3,399	383	715	20

セグメント別の状況

▶ ビニルアセテート

光学用ポパールフィルムは液晶パネルの数量増および大型化により販売量が増加しました。西条事業所の新設設備は4月に稼働開始しました。ポパール樹脂は欧州、アジアで需要が低迷しました。PVBフィルムは引続き欧州建築市場低迷の影響を受けました。水溶性ポパールフィルムは旺盛な需要を背景に順調に拡大、それに対応するため米国において新工場建設(2016年1月稼働予定)を決定しました。

EVOH樹脂(エパール)は、米国、アジアを中心に順調に拡大しました。

2014年6月1日に米国デュポン社より譲り受けたビニルアセテート関連事業(GLS事業)の業績については、2014年6月から12月の7ヵ月分を当該セグメントに算入しています。製造・販売ともに問題なく統合を完了しましたが、のれん代等償却費の発生等により赤字となりました。

▶ イソプレン

イソプレン関連では、ファインケミカルが順調に推移しました。熱可塑性エラストマー(セプトン)は堅調に推移しました。液状ゴムは需要が回復しました。

耐熱性ポリアミド樹脂(ジェネスタ)は、LED反射板用途、コネクタ用途、自動車用途いずれも順調でした。

2015年度 業績予想

機能材料

メタクリル樹脂は、期前半は市況の低迷により苦戦しましたが、期後半は一部の需要が回復し増益に転じました。

メディカルは、歯科材料の販売が順調でした。

人工皮革(クラリーノ)は、既存プロセスの中国移管等の事業構造改善効果が発現し、黒字化しました。

繊維

ビニロンは、ブレーキホース用途、アスベスト代替のFRC(繊維補強セメント)用途ともに好調に推移しました。

トレーディング

ポリエステルを中心とする繊維関連事業、化学品関連事業ともに順調に推移しました。また、海外拠点拡充を進めました。

その他

その他事業は、総じて堅調に推移しました。

2015年度は売上高、営業利益、経常利益、当期純利益の全てにおいて過去最高を更新いたします。

2015年度 業績予想

(億円)

	上期	下期	通期
売上高	2,650	2,750	5,400
営業利益	280	350	630
経常利益	275	345	620
当期純利益	170	190	360
1株当たり当期純利益	-	-	102円69銭
1株当たり配当	18円	18円	36円

前提としている平均為替は米ドル120円、ユーロ130円、国産ナフサ52千円/klです。

2015年度 配当金について

36円/株 予定 (中間:18円、期末:18円)

配当性向: 35.1%

[GS-STEP]期間中の利益配分

- 総還元性向: 35%以上
- 1株当たり配当金: 36円以上

新中期経営計画「GS-STEP」(2015年度～2017年度)の概要

当社グループは、ありたい姿である「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学会社」を実現するため、2015年1月より3ヵ年(2015年度～2017年度)の新中期経営計画「GS-STEP」をスタートいたしました。

1 「GS-STEP」の主要経営戦略

「GS-STEP」の経営戦略は、Synergy、Technology、Eco-friendlinessのもとに、次に掲げる戦略を推進します。これらの戦略を確実に実施し、Profitabilityを実現いたします。



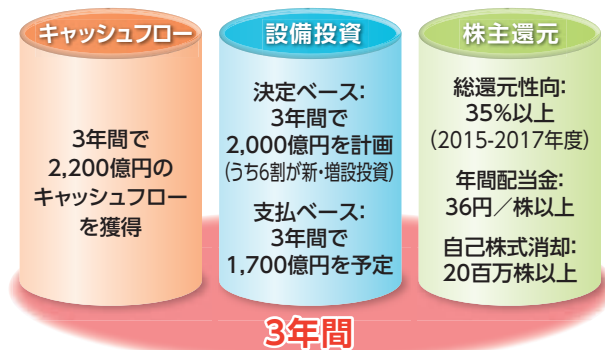
コア事業の深耕	<ul style="list-style-type: none"> ▶ビニルアセテート：M&Aなど投資効果を結実させる ▶イソプレン：次なる成長に向けた布石を打つ
技術革新	<ul style="list-style-type: none"> ▶新製品・新用途・新プロセスを確立する ▶新事業を創出する
次世代成長モデル	<ul style="list-style-type: none"> ▶アライアンス・M&Aにより新領域を獲得する ▶革新的なビジネスモデルを確立する
経営資源最適配置	<ul style="list-style-type: none"> ▶グローバルで経営資源を最適配置する ▶海外人材を積極活用する
環境への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ▶地球環境に貢献する製品を拡大する ▶環境負荷を低減したプロセスで製造する

2 業績目標

	17年度計画 (GS-STEP)
売上高	6,500億円
営業利益	900億円
営業利益率	13.8%
当期純利益	570億円
1株当たり純利益	163円

事業セグメント	17年度計画 (GS-STEP)	
	売上高	営業利益
ビニルアセテート	3,300億円	765億円
イソプレン	730億円	100億円
機能材料	650億円	65億円
繊維	560億円	40億円
トレーディング	1,300億円	50億円
その他	920億円	45億円
調整額	△960億円	△165億円
合計	6,500億円	900億円

3 資源配分・株主還元



新中期経営計画「GS-STEP」のスタートにあたって

代表取締役社長 伊藤 正明



代表取締役社長 伊藤 正明

拡大するなどの可能性もあり、先行きは予断を許しませんが、短期的には当社の業績にプラスに働くと予想しています。

一方、当社の状況は、〈クラリーノ〉もようやく14年度に黒字化し、新事業を除き赤字の事業がなくなりました。世界経済の先行きに不透明感がありますが、当社を取り巻く経営環境は悪くはありません。いいタイミングで、バトンタッチをしてもらったと思っています。

Q2 「GS-STEP」でクラレグループが 目指す方向性を教えてください。

「GS-STEP」は、「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現するという強い意志を持って策定した計画です。

前中期経営計画「GS-Ⅲ」で実施したデュポン社からのビニルアセテート関連事業（GLS事業）買収や海外拠点での生産能力増強などをはじめとするビニルアセテート事業の世界4極展開、インソレン事業のグローバル拡大に向けた海外プラント新設の検討開始、歯科材料における（株）ノリタケデンタルサプライの統合、新事業の創出などの諸施策の成果をしっかりと結実させれば、高収益は実現できると考えています。また将来の事業拡大に向けた経営基盤の構築を着実に進めることも重要です。これらを着実に実行することで、ありがたい姿である「世界に存在感を示す高収益スペシャリティ化学企業」を実現できると考えています。

Q3 「GS-STEP」で掲げている 5つの経営戦略の具体的な内容を 教えてください。

【コア事業の深耕】では、事業買収や能力増強等の投資効果を結実し、ナンバーワン、オンリーワン事業の事業基盤をより磐石なものとして競争優位性を高めるとともに、次の成長に向けた布石を打ちます。

【技術革新】では、独自性の高い当社の技術を活かし、新領域・新技術への展開を加速し、新事業を創出するとともに、圧倒的な品質、コスト優位性を実現するために、プロセス改良や新プロセス確立を推進します。

Q1 まずは新社長としての今のお気持ちを聞かせて下さい。

昨年10月に伊藤文大社長（当時）より、社長交代を言われたのですが、年明けまでは、正直、実感が湧きませんでした。しかし、1月1日の初詣で、まず初めに会社の1年間の安全を願った時から、重責を実感し、身が引き締まる思いを持つと同時に、クラレグループの更なる発展のために、微力ながら力を尽くそうと強く決意しました。前社長も伊藤姓、私も伊藤と、偶然にも伊藤が2代続き、新聞などでは「W（ダブル）伊藤」と報道されたりしていますが、前社長から託されたバトンをさらにたく長くして次に繋ぐことが、私の役目だと考えていますので、クラレグループの更なる発展に向けて、真摯に業務に取り組んでゆく所存です。

さて、経済環境ですが、国内においては円安傾向に伴う輸入物価上昇による個人消費の落ち込みの懸念、国外においては、米国経済は順調に推移するものの、欧州は景気低迷からの回復が遅れ、また中国経済は成長が減速し、新興国の景気はまだ模様といった状況が続くと予想されます。さらに2014年度終盤からの原油価格急落は、世界経済に影響を与え、加えて地政学上のリスクが



「次世代成長モデル」では、M&Aやアライアンスを含めた外部資源のより一層の有効活用により、新規事業領域への拡大を図るとともに、研究開発、技術サービス、生産、販売、間接業務など様々な企業活動において、従来のやり方にとらわれない革新的なビジネスモデルの確立にチャレンジします。

「経営資源最適配置」では、GLS事業統合などにより拡充した拠点や人材等の経営資源を、最適配置、最適活用することで、グローバル経営の質を高めます。

「環境への貢献」では、地球環境に貢献する製品を提供するとともに、環境負荷を低減したプロセスで生産を行います。

Q 4 「GS-STEP」の数値目標について教えてください。

「GS-STEP」の最終年度の2017年度の数値目標は、売上高6,500億円、営業利益900億円、売上高営業利益率13.8%、1株当たり当期純利益163円です。売上高営業利益率は、当社のようなスペシャリティ化学企業を表す指標として、また各事業の運営における管理指標として適していることから、目標指標としまし

た。また、株主の皆様にとって重要な指標の1つである1株当たり当期純利益も目標指標にいたしました。高収益の実現で、当該指標の向上を目指します。

Q 5 セグメント別事業戦略について教えてください。

ビニルアセテートセグメントでは、注力すべきは昨年6月に米国デュポン社から譲り受けたGLS事業のシナジー効果を着実に発現させることです。ビニルアセテート事業に関しては、GLS事業以外でも前中期経営計画「GS-Ⅲ」期間中に積極的な設備投資で事業拡大への備えを十分に行いました。例えば、ポパール、ガスバリア性樹脂(エパール)ともに海外で増強投資を行いました。特にポパールでは悲願の北米新プラントが間もなく稼働します。PVBフィルムも欧州で増強を行いました。ポパールフィルムは、西条で光学用フィルムの能力を増強するとともに、2012年に買収した水溶性ポパールフィルムのモノソル社の能力増強を進めました。「GS-STEP」では、これらを実績化し、さらにGLS事業統合シナジーを発現させ、世界No.1サプライヤーの地位を不動のものとします。

インプレセグメントはオンリーワン製品の比率が高いセグメントではありますが、さらなる高付加価値品へのシフトにより、収益力向上を図りつつ、事業規模をグローバルに拡大します。具体的なテーマとして、〈ジェネスタ〉の新銘柄開発による市場拡大や、新規ファルネセン系液状ゴムの採用拡大などがあります。また、大きなテーマとして、次の成長に向けたファインケミカルや〈ジェネスタ〉の海外拠点構想の検討を進めます。

機能材料セグメントでは、競争が激化する中、徹底したコストダウンおよび高機能品の拡販、独自素材・技術を活用した新規分野・新規用途品の開発により市況に左右されにくい事業基盤の確立を図ります。具体的なテーマとして、メタクリルでは、〈クラリティ〉のような当社独自の素材や技術を活用し、新分野や用途を開拓します。歯科材料については、有機・無機材料の製品ラインアップの拡充により、金属代替を推進し、(株)ノリタケデンタルサプライとの統合効果を最大限に発揮させます。〈クラリーノ〉では、環境にやさしい無溶剤プロセスで生産する人工皮革〈ティレニーナ〉の事業基盤を確立します。

繊維セグメントは、自らの強みを活かした新用途開拓推進、革新的な生産プロセス開発によるコストダウンにより収益力を向上します。具体的なテーマとして、ビニロンにおいて、近い将来に新興国でアスベストが規制されることを見越して、アスベスト代替ビニロンを当該諸国で製造・販売できるようなコンパクトな革新的な生産プロセスを実現します。

新事業他では、新事業開発においては戦略的パートナーシップ活用等によるスピードアップを図ります。具体的なテーマとして、液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉では、モバイル機器の薄型化といった市場トレンドや無線の高速化といった技術トレンドに合わせた事業展開により、デファクトスタンダード化を目指します。LiB用負極材〈バイオカーボトロン〉では、電気自動車の車載電池向けの開発を加速します。アクア事業では、排水処理事業の拡大や食品残渣(生ごみ)処理用のゲルと装置の販売を促進します。また、研究開発においては、基幹技術への資源配分による深化を進めていきます。

Q 6 M&Aについての考え方を教えてください。

M&Aには好球必打で臨みます。好球必打とは、良い案件、良い相手、良いタイミングがそろえば実施するということです。「GS-STEP」にはM&Aの数値目標は算入しておりません。これからさらに大きく成長するためには、軸足をコア事業であるビニルアセテートやインプレンに置きつつ、半歩ぐらい踏み出して新規事業領域を拡大することが必要だと考えています。

Q 7 「GS-STEP」期間中の設備投資を教えてください。

「GS-STEP」期間中の3年間で2,000億円の設備投資を決定する計画ですが、そのうち6割の1,200億円が将来の成長に向けた新設、増設投資です。ポパールフィルムやガスバリア性樹脂〈エパール〉、PVBフィルム、熱可塑性エラストマー〈セプトン〉といったコア事業への投資が中心ですが、液晶ポリマーフィルム〈ベクスター〉やLiB用負極材〈バイオカーボトロン〉といった新規事業への投資も計画しています。

Q 8 「GS-STEP」期間中の株主還元についてのお考えは？

当社は株主還元と将来への成長投資を共に重視し、経営の重要課題と認識しております。適切な株主還元による配分と、持続的な成長を通じた企業価値の向上により、株主の皆様へ報いたいと考えています。

「GS-STEP」期間中の株主還元につきましては、持続的な業績向上を通じた利益配分の増加を基本方針として、総還元性向は35%以上、1株当たり年間配当金は36円以上をお約束します。

Q 9 最後にクラレグループをどのような会社になりたいとお考えですか？

ビニルアセテートにしっかりと軸足を置きつつ、多面的な事業展開での成長を目指したいと思っています。

GLS事業統合により、ビニルアセテート事業はコア中のコア事業となりましたが、ビニルアセテートだけの会社になりたいとは思っていません。インプレンは第2の柱として、もっと発展させたいと考えています。また繊維でも、アスベスト規制が全世界的に広がれば、ビニロンにとって大きなチャンスが広がるはずで、新技術や新製品による新規事業の創出や新領域への展開はもちろんですが、既存の製品であっても市場の変化をうまく捉えたり、技術的な改良を加えることで新たな展開を図ることができますので、可能性は無限にあると思っています。



2014年度のクラレグループの主なニュースを

日本フラッグフットボール協会とクラレファスニングが体育用具を共同開発!

公益財団法人日本フラッグフットボール協会とクラレファスニング株式会社は、「フラッグフットボール」の体育の授業で用いる「フラッグ」と「ベルト」を新たに共同開発しました。

このベルトには耐候性・耐久性に優れた面ファスナー〈マジックテープ〉が加工されており、様々な胴回りの子どもたちでも余り無く簡単に巻きつけることができます。この用具は日本全国800校の小学校に寄贈されました。



新しく開発されたフラッグとベルト



ベルト部分は装着が容易に!

フラッグフットボールとは

フラッグフットボールはアメリカンフットボールを基に考案されたニュースポーツで、タックルの代わりに腰につけた「フラッグ」を取り合います。「鬼ごっこ」と「作戦づくり」とが組み合わさったスポーツであり、「運動が苦手な子どもでも大活躍できる」球技として、全国4,600校を超える小学校で授業事例が生まれるなど、学校授業で急速に広がり続けています。



2014年

4月

10月

11月

2014年4-9月のクラレグループトピックス

- リチウムイオン二次電池向け植物系ハードカーボン負極材〈バイオカーボトロン〉の新プラントが完成
- 米国デュボン社のビニルアセテート関連事業譲受完了
- クラレノリタケデンタル株式会社 ジルコニア系新素材を開発
- 「ヒッグス」粒子発見に貢献した「プラスチックシンチレーションファイバー」で平成25年度「繊維学会技術賞」を受賞
- 米国における産業用ポパールフィルム生産設備の新設を決定
- バイオマス由来のバイオ材料〈PLANTIC〉フィルムを日本市場で展開

欧州におけるポリビニルブチラール(PVB)シート事業の一部売却について

2014年6月に公表しました米国デュボン社からのビニルアセテート関連事業の譲受については、欧州におけるポリビニルブチラール(PVB)シート事業の一部を第三者に譲渡することを独占禁止法上の許可条件として、欧州当局の承認を取得していました。

10月、当社はGVC Holdings, Inc.の子会社であるGVC S.A.に当該事業を譲渡することにつき合意し、契約を締結しました。

ご紹介します。

※記載している情報は発表日時点のものです。

クラレグループの新企業CM ミラバケッソ第二章はじまる

企業広告キャンペーンの一環として「ミラバケッソ」(注)テレビCMの新バージョンを放映しました。

8年目となるミラバケッソCMシリーズにフレッシュな風を吹き込むべく、新CM「ミラバケッソ ニューヒロイン登場」篇では女優の黒島結菜^{くろしま ゆいな}さんを新たに迎えました。クラレちゃんが新しい道(未来)を切り開いていく姿に、黒島さんの「化けない未来なんてつまらない」という言葉をのせて、未来に化ける新素材で産業の新領域の開拓に取り組み続ける当社の企業姿勢を表現しています。

CMのテレビ放映は1月初旬で終了しましたが、企業広告キャンペーンサイト<http://www.mirabakesso.jp/>では引き続きストリーミング配信を行っています。CMのメイキング映像や撮影ウラ話なども掲載しておりますので、是非ご覧ください。

(注)キャンペーンのキャッチフレーズ

「未来に化ける新素材」⇒「ミラいにバケる新素材」⇒「ミラバケッソ」



12月

2015年

1月

第7回「内海哲也 ランドセル基金」の贈呈式

当社が応援・協力している「内海哲也 ランドセル基金」の贈呈式が11月30日、東京都北区の児童養護施設「星美ホーム」で行われました。読売巨人軍の内海哲也投手から、今シーズンの打球インニング数と同じ144個のジャイアンツオリジナルの「クラリーノ」製ランドセルが贈呈されました。

この日、星美ホームでは、来春小学生になる16人の子どもたちに、内海投手から直接ランドセルがプレゼントされました。

「内海哲也 ランドセル基金」の概要

この基金は、プロ野球読売巨人軍の内海投手が首都圏を中心とした養護施設の来春小学生になる児童たちに、レギュラーシーズンの成績に応じてランドセルを贈呈することを目的に設立されました。2014年度は初の試みとして、東日本大震災の被害を受けた福島の子どもの児童養護施設「アイリス園」でも12月20日に贈呈式を実施しました。

当社はランドセルメーカーとの調整、ランドセルの配送作業などのサポートを通じて、この活動を応援・協力しています。

贈呈されたランドセル数2008年～2014年シーズン

年度	贈呈数	年度	贈呈数
2008年	154個	2012年	121個
2009年	115個	2013年	160個
2010年	121個	2014年	144個
2011年	144個	合計	959個



2014年度

連結損益計算書の要約

(単位:億円)

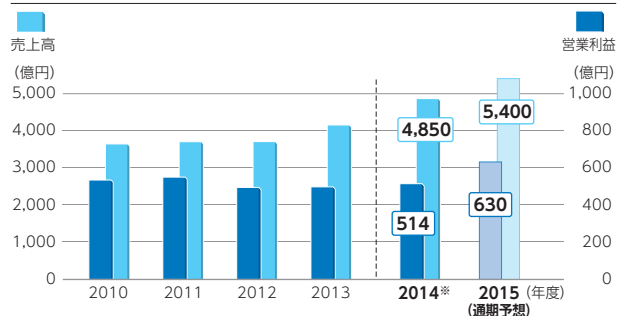
科目	当期*1	当期(補正)*2	前期*3	増減
売上高	4,114	4,850	4,135	715
売上原価	2,943			
売上総利益	1,171			
販売費及び一般管理費	768			
営業利益	403	514	495	19
営業外収益	29			
営業外費用	31			
経常利益	401	510	493	17
特別利益	7			
特別損失	92			
税金等調整前当期純利益	315			
法人税、住民税及び事業税	107			
法人税等調整額	△11			
少数株主損益調整前当期純利益	219			
少数株主利益	6			
当期純利益	213	275	294	△19

*1: 2014年4月1日～2014年12月31日

*2: 2014年1月1日～2014年12月31日

*3: 2013年4月1日～2014年3月31日

売上高・営業利益



※ 2014年度は国内・海外ともに1～12月の12ヵ月に補正した業績を比較参考値として表示しています。

連結貸借対照表の要約

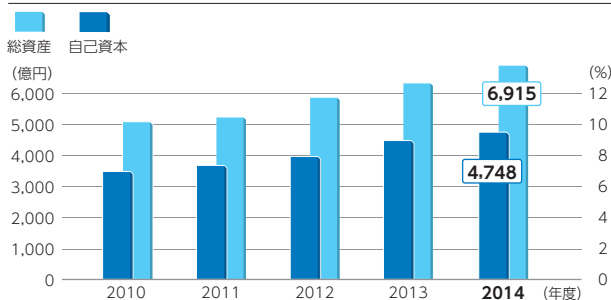
(単位:億円)

資産の部	当期*1	前期*2	増減
流動資産	2,692	3,024	△332
現金及び預金	339	497	△158
受取手形及び売掛金	1,050	911	139
有価証券	25	583	△558
棚卸資産	1,071	886	185
繰延税金資産	47	59	△12
その他	165	92	74
貸倒引当金	△6	△5	△1
固定資産	4,223	3,318	905
有形固定資産	2,624	2,222	402
建物及び構築物	527	447	80
機械装置及び運搬具	1,203	919	284
建設仮勘定	626	591	35
その他	268	265	3
無形固定資産	888	572	316
投資その他の資産	711	524	187
投資有価証券	543	393	151
その他	168	132	36
貸倒引当金	△0	△0	△0
資産合計	6,915	6,343	573

*1: 2014年12月31日現在

*2: 2014年3月31日現在

総資産・自己資本



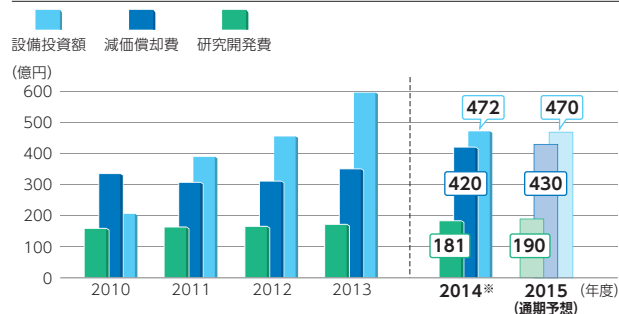
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は、億円未満を四捨五入しています。

(単位:億円)

負債の部	当期*1	前期*2	増減
流動負債	1,099	891	208
支払手形及び買掛金	430	354	76
短期借入金	121	131	△ 11
その他	548	406	142
固定負債	998	926	71
社債	100	100	—
長期借入金	423	422	1
その他	474	405	70
負債合計	2,097	1,818	279
純資産の部	当期*1	前期*2	増減
株主資本	4,236	4,173	63
資本金	890	890	—
資本剰余金	872	871	0
利益剰余金	2,856	2,796	59
自己株式	△ 381	△ 384	3
その他の包括利益累計額	512	285	226
その他有価証券評価差額金	93	69	23
繰延ヘッジ損益	1	△ 0	1
為替換算調整勘定	469	270	199
退職給付に係る調整累計額	△ 51	△ 54	4
新株予約権	10	10	△ 0
少数株主持分	61	56	5
純資産合計	4,818	4,525	294
負債純資産合計	6,915	6,343	573

* 1 : 2014年12月31日現在 * 2 : 2014年3月31日現在

設備投資額・減価償却費・研究開発費



※ 2014年度は国内・海外ともに1~12月の12ヵ月に補正した業績を比較参考値として表示しています。

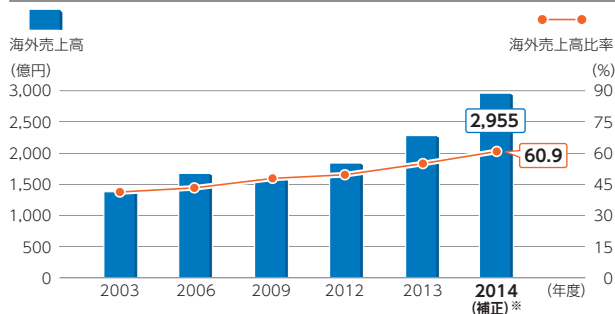
連結キャッシュ・フロー計算書の要約

(単位:億円)

科目	当期*1
1.営業活動によるキャッシュ・フロー	408
税金等調整前当期純利益	315
減価償却費	357
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△ 189
その他営業活動による支出	△ 75
2.投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,057
有形・無形固定資産の取得による支出	△ 434
その他投資活動による収支	△ 623
3.財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 37
借入金の純増減額	91
自己株式の売却・取得による収支	2
配当金の支払額	△ 127
その他財務活動による収支	△ 2
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	33
5.現金及び現金同等物の増減額	△ 652
6.現金及び現金同等物の期首残高	1,006
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0
8.連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△ 0
9.現金及び現金同等物の期末残高	354

* 1 : 2014年4月1日~2014年12月31日

海外売上高推移



※ 2014年度は国内・海外ともに1~12月の12ヵ月に補正した業績を表示しています。

株式情報について

株式の状況

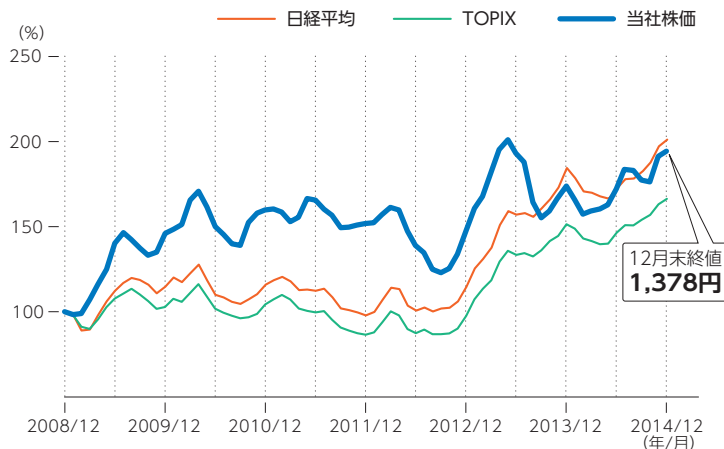
発行可能株式総数	1,000,000,000 株
発行済株式の総数	382,863,603 株
株主数	43,898 名

株主構成



当社株価と主要指標との比較 (2008年12月～2014年12月)

2008年12月を100として、各指標の動きを指数化して比較しています。



投資家向けページのご案内

当社ホームページ内の投資家向けページでは、決算情報の提供に加え、決算説明会や株主総会の模様の動画配信などタイムリーに情報を掲出しています。是非ご覧ください。

投資家の皆様へ



<http://www.kuraray.co.jp>

クラレ 検索

アンケートご協力のお願い

2015年4月30日(木)まで

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。

今後とも株主の皆様との双方向のコミュニケーションを図っていきたく思っております。つきましては、アンケートにご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、プレゼントをスピーディーにお届けするため、アンケートの回答を原則Web経由とさせていただきます。将来的にWebのみの受付に集約することを考えておりますので、パソコンから以下アンケートサイトにアクセスの上、是非ご利用くださいますようお願いいたします。

ご回答いただいた方には、
もれなくアルパカの
「クラレちゃん」
プチぬいぐるみ1体
をプレゼント
いたします。

アルパカの「クラレちゃん」 プチぬいぐるみ 1体

ご回答いただいた方には、もれなくミラバケッソCMのマスコットキャラクター アルパカの「クラレちゃん」プチぬいぐるみ1体をプレゼントいたします。

わき腹の部分を押すと「ミラバケッソ」と可愛く鳴きます！
写真の2種類のうち、いずれか1体をお届けいたします。



アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo! JAPAN[®]やGoogle[®]などの検索エンジンからアンケートサイトを呼び出します。

株主ひろば

または、下記URLを入力ください。

kabuhiro.jp

ご回答方法



アンケートナンバー

●●●●●

アンケートサイト画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー●●●●●を入力の上、回答画面にお進みください。
事前に同封の配当金計算書・配当金領収証をお手元にご準備ください。

操作方法などの問い合わせ先

株式会社クラレ IR・広報部

電話：03-6701-1075

平日 9:00-12:00/13:00-17:30 土日祝 休み

* インターネットをご利用できない場合は、添付のアンケートはがきによるご回答も受けいたします。なお、はがきによるご回答の場合、プレゼントの発送が遅れる場合がございます。予めご了承ください。



このアンケートは、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。

会社概要

クラレは世界的な社会的責任投資(SRI)株式指数の構成銘柄に選定されています。

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926(大正15)年6月24日
資本金	890億円(2014年12月31日現在)
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 大手センタービル TEL(03)6701-1000 FAX(03)6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビル オフィスタワー TEL(06)7635-1000 FAX(06)7635-1005
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp

役員 (2015年3月27日現在)

代表取締役会長	伊藤 文大
代表取締役社長	伊藤 正明
代表取締役・専務執行役員	山下 節生
取締役・専務執行役員	藤井 信雄
取締役・常務執行役員	天雲 一裕
取締役・常務執行役員	雪吉 邦夫
取締役・常務執行役員	松山 貞秋
取締役・常務執行役員	久川 和彦
取締役・常務執行役員	古宮 淳
取締役・常務執行役員	早瀬 博章
取締役(社外取締役)	塩谷 隆英
取締役(社外取締役)	浜口 友一
常勤監査役	蛭川 洋一
常勤監査役	村上 敬司
監査役(社外監査役)	藤本 美枝
監査役(社外監査役)	岡本 吉光
監査役(社外監査役)	名倉 三喜男
執行役員	マティアス グトヴァイラー (Matthias Gutweiler)
執行役員	小野寺 正憲
執行役員	中山 和太
執行役員	阿部 憲一
執行役員	佐野 義正
執行役員	ジョージ アブディ (George Avdey)
執行役員	豊浦 仁
執行役員	山根 幸則
執行役員	大村 章
執行役員	柏村 次史
執行役員	中島 多加志
執行役員	林 洋秀

クラレグループの主な事業

ビニルアセテート	ポパール樹脂・フィルム、PVB樹脂・フィルム、EVOH樹脂・フィルムの製造・販売
イソプレン	イソプレン系化学品、ポリアミド樹脂の製造・販売
機能材料	メタクリル樹脂、メディカル関連製品、人工皮革の製造・販売
繊維	ビニロン、不織布、面ファスナー、ポリエステル繊維の製造・販売
トレーディング	繊維製品、樹脂、化学品の輸出入・卸売
その他	炭素材、水処理用高機能膜・システムの製造・販売、エンジニアリング事業

- (注) 1.この冊子に記載した当社財務データはすべて連結ベースです。
 2.この冊子に記載の()をつけた名称は、当社グループの製品の商標です。
 3.この冊子に記載した億円単位の当社財務データ(実績値)は、億円未満を四捨五入して表示しています。

【表紙の写真について】 当社グループ社員が撮影した写真を表紙に使用しています。

撮影者：クラレケミカル(株) 鶴海工場
 太田 幸人

タイトル：ヤマトシジミ

撮影者コメント：ヤマトシジミはどこでも見かける小さな蝶です。ありふれたものでもよく観察すると意外な美しさを発見することができます。蝶の翅は表面の方が美しい場合が多く、この写真も翅を開いているところを狙って撮りました。